

定額複利預金の規定改正について

当金庫は、下記の規定を令和2年7月20日付で改正し、電子化することとしましたので、お知らせします。

記

1. 定額複利預金（とくだねくんⅡ）規定

定額複利預金（とくだねくんⅡ）規定	
新	旧
<p>1.（自動継続）</p> <p>(1) 定額複利預金「とくだねくんⅡ」（以下「この預金」といいます。）は、証書表面、通帳記載（以下「表面記載」といいます。）の最長預入期限に、自動的に1年もの自由金利型定期預金（M型）（以下「スーパー定期」といいます。）に継続します。継続されたスーパー定期についても同様に1年毎に継続します。</p> <p>(2) この預金の継続後のスーパー定期の利率は、継続日における当金庫所定の利率とします。ただし、この預金の継続後の利率について別の定めをしたときは、その定めによるものとします。</p> <p>(3) 継続を停止するときは、最長預入期限（継続をしたときはスーパー定期の満期日）までにその旨を申出てください。この申出があったときは、この預金は最長預入期限（スーパー定期は満期日）以後に支払います。</p> <p>2.（預金の支払時期等）</p> <p>(1) この預金は、預金の全部または一部について表面記載の預入日の6か月後の応当日以後の任意の日に利息とともに支払います。ただし、最長預入期限に自動的に継続されたスーパー定期については、一部支払はできません。</p> <p>(2) 前記（1）による預金（一部支払をしたときは、その支払い後の預金残金。以下同様とします。）の一部支払は、預入日の6か月後の応当日から最長預入期限の前日までの間に、10,000円以上1円単位の金額で請求してください。ただし、お支払い後の残高が10,000円以上になるように指定してください。なお、この預金の一部支払をしたときは、その支払い後の預金残高について、引続き自動継続の取扱をします。</p> <p><u>3.（証券類の受入れ）</u></p> <p><u>(1) 小切手その他の証券類を受入れたときは、その証券類が決済された日を預入日とします。</u></p> <p><u>(2) 受入れた証券類が不渡りとなったときは、預金になりません。不渡りとなった証券類は、通帳の当該受入れの記載を取消したうえ、当店で返却します。（証書の場合は、証書と引換えに当店で返却します。）</u></p> <p>4.（利息）</p> <p>(1) この預金の利息は、最長預入期限（解約するときは解約時、一部支払をするときは一部支払時）に預入日から最長預入期限（解約するときは解約日、一部支払をするときは一部支払日）の前日までの日数および次の預入期間に応じた預入日における当金庫所定の利率によって6か月複利の方法により計算します。ただし、一部支払をするときのこの預金の利息は、一部支払をする元金部分について計算します。</p>	<p>1.（自動継続）</p> <p>(1) 定額複利預金「とくだねくんⅡ」（以下「この預金」といいます。）は、証書表面、通帳記載（以下「表面記載」といいます。）の最長預入期限に、自動的に1年もの自由金利型定期預金（M型）（以下「スーパー定期」といいます。）に継続します。継続されたスーパー定期についても同様に1年毎に継続します。</p> <p>(2) この預金の継続後のスーパー定期の利率は、継続日における当金庫所定の利率とします。ただし、この預金の継続後の利率について別の定めをしたときは、その定めによるものとします。</p> <p>(3) 継続を停止するときは、最長預入期限（継続をしたときはスーパー定期の満期日）までにその旨を申出てください。この申出があったときは、この預金は最長預入期限（スーパー定期は満期日）以後に支払います。</p> <p>2.（預金の支払時期等）</p> <p>(1) この預金は、預金の全部または一部について表面記載の預入日の6か月後の応当日以後の任意の日に利息とともに支払います。ただし、最長預入期限に自動的に継続されたスーパー定期については、一部支払はできません。</p> <p>(2) 前記（1）による預金（一部支払をしたときは、その支払い後の預金残金。以下同様とします。）の一部支払は、預入日の6か月後の応当日から最長預入期限の前日までの間に、10,000円以上1円単位の金額で請求してください。ただし、お支払い後の残高が10,000円以上になるように指定してください。なお、この預金の一部支払をしたときは、その支払い後の預金残高について、引続き自動継続の取扱をします。</p> <p><u><追加></u></p> <p>3.（利息）</p> <p>(1) この預金の利息は、最長預入期限（解約するときは解約時、一部支払をするときは一部支払時）に預入日から最長預入期限（解約するときは解約日、一部支払をするときは一部支払日）の前日までの日数および次の預入期間に応じた預入日における当金庫所定の利率によって6か月複利の方法により計算します。ただし、一部支払をするときのこの預金の利息は、一部支払をする元金部分について計算します。</p>

- ① 6か月以上1年未満
- ② 1年以上2年未満
- ③ 2年以上3年未満
- ④ 3年以上4年未満
- ⑤ 4年以上5年未満
- ⑥ 5年

- (2) この預金の利息は、最長預入期限（またはスーパー定期の満期日）に元金に組み入れて継続します。
- (3) 継続を停止した場合のこの預金の利息は、最長預入期限（またはスーパー定期の満期日）以後にこの預金とともに支払います。なお、最長預入期限（またはスーパー定期の満期日）以後の利息は、最長預入期限（またはスーパー定期の満期日）から解約日または書替継続日の前日までの日数について解約日または書替継続日における普通預金の利率により計算し、この預金とともに支払います。
- (4) この預金を第7条第1項により満期日前に解約する場合および第7条第4項により解約する場合には、その利息は、預入日から解約日の前日までの日数について解約日における普通預金の利率によって計算し、この預金とともに支払います。継続後のスーパー定期を満期日前に解約する場合に適用する利率は、継続日現在における当金庫所定の期限前解約利率とします。
- (5) この預金の付利単位は1円とし、1年を365日として日割で計算します。

5. (総合口座)

- (1) この預金を定期性総合口座の担保として預入され、当座貸越が発生した場合の貸越利率は、最長預入期限時に適用する預入期間別利率に0.50%を加えた利率とします。
- (2) スーパー定期を貸越金の担保とする場合およびその他の取扱については、「定期性総合口座取引規定」によるものとします。

6. (反社会的勢力との取引拒絶)

この預金口座は、第7条第4項各号のいずれにも該当しない場合に利用することができ、第7条第4項各号の一にでも該当する場合には、当金庫はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

7. (預金の解約、書替継続)

- (1) この預金は、当金庫がやむを得ないと認める場合を除き、満期日前に解約することはできません。
- (2) この預金を解約または書替継続するときは、証書裏面の受取欄に届出の印章により、記名押印して当店に提出してください。なお、通帳式の場合は、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により、記名押印して通帳とともに当店に提出してください。
- (3) この預金の一部の金額を解約または書替継続するときは、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により記名押印して、証書（通帳）とともに当店に提出してください。
- (4) 次の各号の一にでも該当し、預金者との取引を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。
- ① 預金者が口座開設申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合

- ① 6か月以上1年未満
- ② 1年以上2年未満
- ③ 2年以上3年未満
- ④ 3年以上4年未満
- ⑤ 4年以上5年未満
- ⑥ 5年

- (2) この預金の利息は、最長預入期限（またはスーパー定期の満期日）に元金に組み入れて継続します。
- (3) 継続を停止した場合のこの預金の利息は、最長預入期限（またはスーパー定期の満期日）以後にこの預金とともに支払います。なお、最長預入期限（またはスーパー定期の満期日）以後の利息は、最長預入期限（またはスーパー定期の満期日）から解約日または書替継続日の前日までの日数について解約日または書替継続日における普通預金の利率により計算し、この預金とともに支払います。
- (4) 当金庫がやむを得ないものと認めてこの預金を預入日の6か月後の応当日前に解約する場合、および6.(3)の規定により解約する場合には、その利息は、預入日から解約日の前日までの日数について解約日における普通預金の利率によって計算し、この預金とともに支払います。継続後のスーパー定期を満期日前に解約する場合に適用する利率は、継続日現在における当金庫所定の期限前解約利率とします。
- (5) この預金の付利単位は1円とし、1年を365日として日割で計算します。

4. (総合口座)

- (1) この預金を定期性総合口座の担保として預入され、当座貸越が発生した場合の貸越利率は、最長預入期限時に適用する預入期間別利率に0.50%を加えた利率とします。
- (2) スーパー定期を貸越金の担保とする場合およびその他の取扱については、「定期性総合口座取引規定」によるものとします。

5. (反社会的勢力との取引拒絶)

この預金口座は、6.(3)①、②AからFおよび③AからEのいずれにも該当しない場合に利用することができ、6.(3)①、②AからFまたは③AからEの一にでも該当する場合には、当金庫はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

6. (預金の解約、書替継続)

(1) <追加>

- (1) この預金を解約または書替継続するときは、証書裏面の受取欄に届出の印章により、記名押印して当店に提出してください。なお、通帳式の場合は、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により、記名押印して通帳とともに当店に提出してください。
- (2) この預金の一部の金額を解約または書替継続するときは、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により記名押印して、証書（通帳）とともに当店に提出してください。
- (3) 次の各号の一にでも該当し、預金者との取引を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。
- ① 預金者が口座開設申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合

② 預金者が、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」という。）に該当し、または次のいずれかに該当することが判明した場合

- A. 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
- B. 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
- C. 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること
- D. 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
- E. 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること

③ 預金者が、自らまたは第三者を利用して次のいずれかにでも該当する行為をした場合

- A. 暴力的な要求行為
- B. 法的な責任を超えた不当な要求行為
- C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
- D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為
- E. その他本号AからDに準ずる行為

8. (届出事項の変更、証書(通帳)の再発行等)

(1) 証書(通帳)または印章を失ったとき、または、印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に届出てください。

(2) 前記(1)の印章、名称、住所その他の届出事項の変更の届出前に生じた損害については、当金庫に過失がある場合を除き、当金庫は責任を負いません。

(3) 証書(通帳)または印章を失った場合のこの預金の元利金の支払いまたは証書(通帳)の再発行は、当金庫所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。

(4) 届出のあった氏名、住所にあてて当金庫が通知または送付書類を発信した場合には、延着しまたは到達しなかったときでも通常到達すべきときに到達したものとみなします。

(5) 証書(通帳)を再発行(汚損等による再発行を含みます。)する場合には、当金庫所定の手数料をいただきます。

9. (成年後見人等の届出)

(1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を届出てください。また、預金者の補助人、保佐人、後見人について、家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合も同様に届出てください。

(2) 家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見

② 預金者が、<追加>次のいずれかに該当したことが判明した場合

- A. 暴力団
- B. 暴力団員
- C. 暴力団準構成員
- D. 暴力団関係企業
- E. 総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等
- F. その他本号AからEに準ずる者

③ 預金者が、自らまたは第三者を利用して次の各号に該当する行為をした場合

- A. 暴力的な要求行為
- B. 法的な責任を超えた不当な要求行為
- C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
- D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為
- E. その他本号AからDに準ずる行為

7. (届出事項の変更、証書(通帳)の再発行等)

(1) 証書(通帳)または印章を失ったとき、または、印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に届出てください。この届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

(2) <追加>

(2) 証書(通帳)または印章を失った場合のこの預金の元利金の支払いまたは証書(通帳)の再発行は、当金庫所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。

(4) <追加>

(3) 証書(通帳)を再発行(汚損等による再発行を含みます。)する場合には、当金庫所定の手数料をいただきます。

8. (成年後見人等の届出)

(1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を届出てください。<追加>

(2) 家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見

人の氏名その他必要な事項を届出てください。

- (3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前記(1)(2)と同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (4) 前記(1)～(3)の届出事項に取消または変更等が生じた場合も同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (5) 前記(1)～(4)の届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

10. (印鑑照合)

払戻請求書、諸届(証書の場合は、証書、諸届)その他の書類に使用された印影を届出の印鑑と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましたうえは、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

なお、個人のこの預金の取引において、預金者は、盗取された証書(通帳)を用いて行われた不正な払戻しの額に相当する金額について、次条により補てんを請求することができます。

11. (盗難証書(通帳)による支払い等)

- (1) 個人のこの預金の取引において、盗取された証書(通帳)を用いて行われた不正な支払い(以下、本条において「当該支払い」といいます。)については、次の各号のすべてに該当する場合、預金者は当金庫に対して当該支払いの額およびこれにかかる手数料・利息に相当する金額の補てんを請求することができます。
 - ① 証書(通帳)の盗難に気づいてからすみやかに、当金庫への通知が行われていること
 - ② 当金庫の調査に対し、預金者より十分な説明が行われていること
 - ③ 当金庫に対し、警察署に被害届を提出していることその他の盗難にあったことが推測される事実を確認できるものを示していること
- (2) 前項の請求がなされた場合、当該支払いが預金者の故意による場合を除き、当金庫は、当金庫へ通知が行われた日の30日(ただし、当金庫に通知することができないやむを得ない事情があることを預金者が証明した場合は、30日にその事情が継続している期間を加えた日数とします。)前の日以降になされた支払いの額およびこれにかかる手数料・利息に相当する金額(以下「補てん対象額」といいます。)を前条本文にかかわらず補てんするものとします。ただし、当該支払いが行われたことについて、当金庫が善意無過失であることおよび預金者に過失(重過失を除く)があることを当金庫が証明した場合には、当金庫は補てん対象額の4分の3に相当する金額を補てんするものとします。
- (3) 前2項の規定は、第1項にかかる当金庫への通知が、証書(通帳)が盗取された日(証書(通帳)が盗取された日が明らかでないときは、盗取された証書(通帳)を用いて行われた不正な預金支払いが最初に行われた日。)から、2年を経過する日以後に行われた場合には、適用されないものとします。
- (4) 第2項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当することを当金庫が証明した場合には、当金庫は補てんしません。
 - ① 当該支払いが行われたことについて当金庫が善

人の氏名その他必要な事項を届出てください。

- (3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前記(1)(2)と同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (4) 前記(1)～(3)の届出事項に取消または変更等が生じた場合も同様に、直ちに書面によって届出てください。
- (5) 前記(1)～(4)の届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

9. (印鑑照合)

払戻請求書、諸届(証書の場合は、証書、**払戻請求書**、諸届)その他の書類に使用された印影を届出の印鑑と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましたうえは、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

<追加>

<追加>

意かつ無過失であり、かつ、次のいずれかに該当すること

A. 当該支払いが預金者の重大な過失により行われたこと

B. 預金者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族その他の同居人、または家事使用人によって行われたこと

C. 預金者が、被害状況についての当金庫に対する説明において、重要な事項について偽りの説明を行ったこと

② 証書（通帳）の盗取が、戦争、暴動等による著しい社会秩序の混乱に乗じまたはこれに付随して行われたこと

(5) 当金庫が当該預金について預金者に支払いを行っている場合には、この支払いを行った額の限度において、第1項にもとづく補てんの請求には応じることができません。また、預金者が、当該支払いを受けた者から損害賠償または不当利得返還を受けた場合も、その受けた限度において同様とします。

(6) 当金庫が第2項の規定にもとづき補てんを行った場合に、当該補てんを行った金額の限度において、当該預金にかかる払戻請求権は消滅します。

(7) 当金庫が第2項の規定により補てんを行ったときは、当金庫は、当該補てんを行った金額の限度において、盗取された証書（通帳）により不正な支払いを受けた者その他の第三者に対して預金者が有する損害賠償請求権または不当利得返還請求権を取得するものとします。

12. (譲渡、質入れの禁止)

(1) この預金および証書（通帳）は、譲渡または質入れすることはできません。

(2) 当金庫がやむを得ないものと認めて質入れを承諾する場合には、当金庫所定の書式により行います。

13. (保険事故発生時における預金者からの相殺)

(1) この預金は、満期日が未到来であっても、当金庫に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当金庫に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したものとして、相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当金庫に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当金庫に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。

(2) 前記(1)により相殺する場合には、次の手順によるものとします。

① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充當の順序方法を指定のうへ、預金証書は届出印を押印して（通帳は届出印を押印した当金庫所定の払戻請求書とともに）直ちに当金庫に提出してください。ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当金庫に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。

② 上記①の充當の指定がない場合には、当金庫の指定する順序方法により充當いたします。

③ 上記①による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当金庫は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方

10. (譲渡、質入れの禁止)

(1) この預金および証書（通帳）は、譲渡または質入れすることはできません。

(2) 当金庫がやむを得ないものと認めて質入れを承諾する場合には、当金庫所定の書式により行います。

11. (保険事故発生時における預金者からの相殺)

(1) この預金は、満期日が未到来であっても、当金庫に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当金庫に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したものとして、相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当金庫に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当金庫に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。

(2) 前記(1)により相殺する場合には、次の手順によるものとします。

① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充當の順序方法を指定のうへ、預金証書は届出印を押印して（通帳は届出印を押印した当金庫所定の払戻請求書とともに）直ちに当金庫に提出してください。ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当金庫に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。

② 上記①の充當の指定がない場合には、当金庫の指定する順序方法により充當いたします。

③ 上記①による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当金庫は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方

法を指定することができるものとします。

- (3) 前記(1)により相殺する場合の利息等については、次のとおりとします。
- ① この預金の利息の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日の前日までとして、利率は約定利率を適用するものとします。
 - ② 借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日までとして、利率、料率は当金庫の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当金庫の定めによるものとします。
- (4) 前記(1)により相殺する場合の外国為替相場については当金庫の計算実行時の相場を適用するものとします。
- (5) 前記(1)により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当金庫の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

14. (規定の変更)

(1) この規定の各条項その他の条件は、金融情勢の状況の変化その他相当の事由があると認められる場合には、当金庫ウェブサイトへの掲載による公表その他相当の方法で周知することにより、変更できるものとします。

(2) 前項の変更は、公表等の際に定める適用開始日から適用されるものとします。

以上

(2020年7月20日改正)

■休眠預金等活用法共通規定

1. (休眠預金等活用法に係る異動事由)

当金庫は、この預金について、当金庫ウェブサイトに掲げる異動事由を「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律(以下「休眠預金等活用法」という。))にもとづく異動事由として取扱います。

2. (休眠預金等活用法に係る最終異動日等)

(1) この預金について、休眠預金等活用法における最終異動日等とは、次に掲げる日のうち最も遅い日というものとします。

- ① 当金庫ウェブサイトに掲げる異動が最後にあった日
- ② 将来における預金に係る債権の行使が期待される事由として次項で定めるものについては、預金に係る債権の行使が期待される日として次項において定める日
- ③ 当金庫が預金者等に対して休眠預金等活用法第3条第2項に定める事項の通知を発した日。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合(1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。)に限り、
- ④ この預金が休眠預金等活用法第2条第2項に定め

法を指定することができるものとします。

- (3) 前記(1)により相殺する場合の利息等については、次のとおりとします。
- ① この預金の利息の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日の前日までとして、利率は約定利率を適用するものとします。
 - ② 借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日までとして、利率、料率は当金庫の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当金庫の定めによるものとします。
- (4) 前記(1)により相殺する場合の外国為替相場については当金庫の計算実行時の相場を適用するものとします。
- (5) 前記(1)により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当金庫の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

<追加>

以上

平成22年4月1日 現在

■休眠預金等活用法共通規定

※「休眠預金等活用法共通規定」を当該規定に挿入

1. (休眠預金等活用法に係る異動事由)

当金庫は、この預金について、当金庫ウェブサイトに掲げる異動事由を「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律(以下「休眠預金等活用法」という。))にもとづく異動事由として取扱います。

2. (休眠預金等活用法に係る最終異動日等)

(1) この預金について、休眠預金等活用法における最終異動日等とは、次に掲げる日のうち最も遅い日というものとします。

- ① 当金庫ウェブサイトに掲げる異動が最後にあった日
- ② 将来における預金に係る債権の行使が期待される事由として次項で定めるものについては、預金に係る債権の行使が期待される日として次項において定める日
- ③ 当金庫が預金者等に対して休眠預金等活用法第3条第2項に定める事項の通知を発した日。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合(1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。)に限り、
- ④ この預金が休眠預金等活用法第2条第2項に定め

<p>る預金等に該当することとなった日</p> <p>(2) 第1項第2号において、将来における預金に係る債権の行使が期待される事由とは、次の各号に掲げる事由のみをいうものとし、預金に係る債権の行使が期待される日とは、当該各号に掲げる事由に応じ、当該各号に定める日とします。</p> <p>① 預入期間、計算期間または償還期間の末日（自動継続扱いの預金にあっては、初回満期日）</p> <p>② 初回の満期日後に次に掲げる事由が生じたこと/当該事由が生じた期間の満期日</p> <p>(a) 異動事由（当金庫ウェブサイトにおいて「異動事由」として掲げる事由をいいます。）</p> <p>(b) 当金庫が預金者等に対して休眠預金活用法第3条第2項に定める事項の通知を発したこと。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日まで）に通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。）に限りします。</p> <p>③ 法令、法令にもとづく命令もしくは措置または契約により、この預金について支払が停止されたこと/当該支払停止が解除された日</p> <p>④ この預金について、強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）の対象となったこと/当該手続が終了した日</p> <p>⑤ 定期性総合口座規定にもとづく他の預金について、前各号に掲げる事由が生じたこと/他の預金に係る最終異動日等</p> <p>3.（休眠預金等代替金に関する取扱い）</p> <p>(1) この預金について長期間お取引がない場合、休眠預金等活用法にもとづきこの預金に係る債権は消滅し、預金者等は、預金保険機構に対する休眠預金等代替金債権を有することになります。</p> <p>(2) 前項の場合、預金者等は、当金庫を通じてこの預金に係る休眠預金等代替金債権の支払を請求することができます。この場合において、当金庫が承諾したときは、預金者は、当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって、休眠預金等代替金債権の支払を受けることができます。</p> <p>(3) 預金者等は、第1項の場合において、次に掲げる事由が生じたときは、休眠預金等活用法第7条第2項による申出および支払の請求をすることについて、あらかじめ当金庫に委任します。</p> <p>① この預金について、振込み、口座振替その他の方法により、第三者からの入金または当金庫からの入金であって法令または契約に定める義務にもとづくもの（利子の支払に係るものを除きます。）が生じたこと</p> <p>② この預金について、手形または小切手の提示その他の第三者による債権の支払の請求が生じたこと（当金庫が当該支払の請求を把握することができる場合に限りします。）</p> <p>③ この預金に係る休眠預金等代替金の支払を目的とする債権に対する強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）が行われたこと</p> <p>④ この預金に係る休眠預金等代替金の一部の支払が行われたこと</p> <p>(4) 当金庫は、次の各号に掲げる事由を満たす場合に</p>	<p>る預金等に該当することとなった日</p> <p>(2) 第1項第2号において、将来における預金に係る債権の行使が期待される事由とは、次の各号に掲げる事由のみをいうものとし、預金に係る債権の行使が期待される日とは、当該各号に掲げる事由に応じ、当該各号に定める日とします。</p> <p>① 預入期間、計算期間または償還期間の末日（自動継続扱いの預金にあっては、初回満期日）</p> <p>② 初回の満期日後に次に掲げる事由が生じたこと/当該事由が生じた期間の満期日</p> <p>(a) 異動事由（当金庫ウェブサイトにおいて「異動事由」として掲げる事由をいいます。）</p> <p>(b) 当金庫が預金者等に対して休眠預金活用法第3条第2項に定める事項の通知を発したこと。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日まで）に通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。）に限りします。</p> <p>③ 法令、法令にもとづく命令もしくは措置または契約により、この預金について支払が停止されたこと/当該支払停止が解除された日</p> <p>④ この預金について、強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）の対象となったこと/当該手続が終了した日</p> <p>⑤ 定期性総合口座規定にもとづく他の預金について、前各号に掲げる事由が生じたこと/他の預金に係る最終異動日等</p> <p>3.（休眠預金等代替金に関する取扱い）</p> <p>(1) この預金について長期間お取引がない場合、休眠預金等活用法にもとづきこの預金に係る債権は消滅し、預金者等は、預金保険機構に対する休眠預金等代替金債権を有することになります。</p> <p>(2) 前項の場合、預金者等は、当金庫を通じてこの預金に係る休眠預金等代替金債権の支払を請求することができます。この場合において、当金庫が承諾したときは、預金者は、当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって、休眠預金等代替金債権の支払を受けることができます。</p> <p>(3) 預金者等は、第1項の場合において、次に掲げる事由が生じたときは、休眠預金等活用法第7条第2項による申出および支払の請求をすることについて、あらかじめ当金庫に委任します。</p> <p>① この預金について、振込み、口座振替その他の方法により、第三者からの入金または当金庫からの入金であって法令または契約に定める義務にもとづくもの（利子の支払に係るものを除きます。）が生じたこと</p> <p>② この預金について、手形または小切手の提示その他の第三者による債権の支払の請求が生じたこと（当金庫が当該支払の請求を把握することができる場合に限りします。）</p> <p>③ この預金に係る休眠預金等代替金の支払を目的とする債権に対する強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）が行われたこと</p> <p>④ この預金に係る休眠預金等代替金の一部の支払が行われたこと</p> <p>(4) 当金庫は、次の各号に掲げる事由を満たす場合に</p>
---	---

<p>限り、預金者等に代わって第3項による休眠預金等代替金の支払を請求することを約します。</p> <p>① 当金庫がこの預金に係る休眠預金等代替金について、預金保険機構から支払等業務の委託を受けていること</p> <p>② この預金について、第3項第2号に掲げる事由が生じた場合には、当該支払への請求に応じることを目的として預金保険機構に対して休眠預金等代替金の支払を請求すること</p> <p>③ 前項にもとづく取扱いを行う場合には、預金者等が当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって支払うこと</p> <p>4. (規定の変更)</p> <p><u>(1) この規定の各条項その他の条件は、金融情勢の状況の変化その他相当の事由があると認められる場合には、当金庫ウェブサイトへの掲載による公表その他相当の方法で周知することにより、変更できるものとします。</u></p> <p><u>(2) 前項の変更は、公表等の際に定める適用開始日から適用されるものとします。</u></p> <p style="text-align: right;"><u>以上</u> <u>(2020年4月1日改正)</u></p>	<p>限り、預金者等に代わって第3項による休眠預金等代替金の支払を請求することを約します。</p> <p>① 当金庫がこの預金に係る休眠預金等代替金について、預金保険機構から支払等業務の委託を受けていること</p> <p>② この預金について、第3項第2号に掲げる事由が生じた場合には、当該支払への請求に応じることを目的として預金保険機構に対して休眠預金等代替金の支払を請求すること</p> <p>③ 前項にもとづく取扱いを行う場合には、預金者等が当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって支払うこと</p> <p><追加></p> <p style="text-align: right;"><u>以上</u> <u>(平成30年4月1日改正)</u></p>
--	---

2. 定額複利預金（退職金とくだねくん）規定

定額複利預金（退職金とくだねくん）規定	
新	旧
<p>1. (自動継続)</p> <p>(1) 定額複利預金「退職金とくだねくん」(以下「この預金」といいます。)は、証書表面、通帳記載(以下「表面記載」といいます。)の最長預入期限に、自動的に1年もの自由金利型定期預金(M型)(以下「スーパー定期」といいます。)に継続します。継続されたスーパー定期についても同様に1年毎に継続します。</p> <p>(2) この預金の継続後のスーパー定期の利率は、継続日における当金庫所定の利率とします。ただし、この預金の継続後の利率について別の定めをしたときは、その定めによるものとします。</p> <p>(3) 継続を停止するときは、最長預入期限(継続をしたときはスーパー定期の満期日)までにその旨を申出てください。この申出があったときは、この預金は最長預入期限(スーパー定期は満期日)以後に支払います。</p> <p>2. (預金の支払時期等)</p> <p>(1) この預金は、預金の全部または一部について表面記載の預入日の1年後の応当日以後の任意の日に利息とともに支払います。ただし、最長預入期限に自動的に継続されたスーパー定期については、一部支払はできません。</p> <p>(2) 前記(1)による預金(一部支払をしたときは、その支払い後の預金残金。以下同様とします。)の一部支払は、預入日の1年後の応当日から最長預入期限の前日までの間に、10,000円以上1円単位の金額で請求してください。ただし、お支払い後の残高が10,000円以上になるように指定してく</p>	<p>1. (自動継続)</p> <p>(1) 定額複利預金「退職金とくだねくん」(以下「この預金」といいます。)は、証書表面、通帳記載(以下「表面記載」といいます。)の最長預入期限に、自動的に1年もの自由金利型定期預金(M型)(以下「スーパー定期」といいます。)に継続します。継続されたスーパー定期についても同様に1年毎に継続します。</p> <p>(2) この預金の継続後のスーパー定期の利率は、継続日における当金庫所定の利率とします。ただし、この預金の継続後の利率について別の定めをしたときは、その定めによるものとします。</p> <p>(3) 継続を停止するときは、最長預入期限(継続をしたときはスーパー定期の満期日)までにその旨を申出てください。この申出があったときは、この預金は最長預入期限(スーパー定期は満期日)以後に支払います。</p> <p>2. (預金の支払時期等)</p> <p>(1) この預金は、預金の全部または一部について表面記載の預入日の1年後の応当日以後の任意の日に利息とともに支払います。ただし、最長預入期限に自動的に継続されたスーパー定期については、一部支払はできません。</p> <p>(2) 前記(1)による預金(一部支払をしたときは、その支払い後の預金残金。以下同様とします。)の一部支払は、預入日の1年後の応当日から最長預入期限の前日までの間に、10,000円以上1円単位の金額で請求してください。ただし、お支払い後の残高が10,000円以上になるように指定してく</p>

ださい。なお、この預金の一部支払をしたときは、その支払い後の預金残高について、引続き自動継続の取扱をします。

3. (証券類の受入れ)

(1) 小切手その他の証券類を受入れたときは、その証券類が決済された日を預入日とします。

(2) 受入れた証券類が不渡りとなったときは、預金になりません。不渡りとなった証券類は、通帳の当該受入れの記載を取消したうえ、当店で返却します。(証書の場合は、証書と引換えに当店で返却します。)

4. (利息)

(1) この預金の利息は、最長預入期限(解約するときには解約時、一部支払をするときは一部支払時)に預入日から最長預入期限(解約するときには解約日、一部支払をするときは一部支払日)の前日までの日数および次の預入期間に応じた預入日における当金庫所定の利率によって6か月複利の方法により計算します。ただし、一部支払をするときのこの預金の利息は、一部支払をする元金部分について計算します。

- ① 1年以上2年未満
- ② 2年以上3年未満
- ③ 3年以上4年未満
- ④ 4年以上5年未満
- ⑤ 5年

(2) この預金の利息は、最長預入期限(またはスーパー定期の満期日)に元金に組み入れて継続します。

(3) 継続を停止した場合のこの預金の利息は、最長預入期限(またはスーパー定期の満期日)以後にこの預金とともに支払います。なお、最長預入期限(またはスーパー定期の満期日)以後の利息は、最長預入期限(またはスーパー定期の満期日)から解約日または書替継続日の前日までの日数について解約日または書替継続日における普通預金の利率により計算し、この預金とともに支払います。

(4) この預金を第7条第1項により満期日前に解約する場合および第7条第4項により解約する場合には、その利息は、預入日から解約日の前日までの日数について解約日における普通預金の利率によって計算し、この預金とともに支払います。継続後のスーパー定期を満期日前に解約する場合に適用する利率は、継続日現在における当金庫所定の期限前解約利率とします。

(5) この預金の付利単位は1円とし、1年を365日として日割で計算します。

5. (総合口座)

(1) この預金を定期性総合口座の担保として預入され、当座貸越が発生した場合の貸越利率は、最長預入期限時に適用する預入期間別利率に0.50%を加えた利率とします。

(2) スーパー定期を貸越金の担保とする場合およびその他の取扱については、「定期性総合口座取引規定」によるものとします。

6. (反社会的勢力との取引拒絶)

この預金口座は、第7条第4項各号のいずれにも該当しない場合に利用することができ、第7条第4項各号の一にでも該当する場合には、当金庫はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

ださい。なお、この預金の一部支払をしたときは、その支払い後の預金残高について、引続き自動継続の取扱をします。

<追加>

3. (利息)

(1) この預金の利息は、最長預入期限(解約するときには解約時、一部支払をするときは一部支払時)に預入日から最長預入期限(解約するときには解約日、一部支払をするときは一部支払日)の前日までの日数および次の預入期間に応じた預入日における当金庫所定の利率によって6か月複利の方法により計算します。ただし、一部支払をするときのこの預金の利息は、一部支払をする元金部分について計算します。

- ① 1年以上2年未満
- ② 2年以上3年未満
- ③ 3年以上4年未満
- ④ 4年以上5年未満
- ⑤ 5年

(2) この預金の利息は、最長預入期限(またはスーパー定期の満期日)に元金に組み入れて継続します。

(3) 継続を停止した場合のこの預金の利息は、最長預入期限(またはスーパー定期の満期日)以後にこの預金とともに支払います。なお、最長預入期限(またはスーパー定期の満期日)以後の利息は、最長預入期限(またはスーパー定期の満期日)から解約日または書替継続日の前日までの日数について解約日または書替継続日における普通預金の利率により計算し、この預金とともに支払います。

(4) 当金庫がやむを得ないものと認めてこの預金を預入日の6か月後の応当日前に解約する場合、および6.(3)の規定により解約する場合には、その利息は、預入日から解約日の前日までの日数について解約日における普通預金の利率によって計算し、この預金とともに支払います。継続後のスーパー定期を満期日前に解約する場合に適用する利率は、継続日現在における当金庫所定の期限前解約利率とします。

(5) この預金の付利単位は1円とし、1年を365日として日割で計算します。

4. (総合口座)

(1) この預金を定期性総合口座の担保として預入され、当座貸越が発生した場合の貸越利率は、最長預入期限時に適用する預入期間別利率に0.50%を加えた利率とします。

(2) スーパー定期を貸越金の担保とする場合およびその他の取扱については、「定期性総合口座取引規定」によるものとします。

5. (反社会的勢力との取引拒絶)

この預金口座は、6.(3)①、②AからFおよび③AからEのいずれにも該当しない場合に利用することができ、6.(3)①、②AからFまたは③AからEの一にでも該当する場合には、当金庫はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

7. (預金の解約、書替継続)

(1) この預金は、当金庫がやむを得ないと認める場合を除き、満期日前に解約することはできません。

(2) この預金を解約または書替継続するときは、証書裏面の受取欄に届出の印章により、記名押印して当店に提出してください。なお、通帳式の場合は、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により、記名押印して通帳とともに当店に提出してください。

(3) この預金の一部の金額を解約または書替継続するときは、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により記名押印して、証書(通帳)とともに当店に提出してください。

(4) 次の各号の一にでも該当し、預金者との取引を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。

① 預金者が口座開設申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合

② 預金者が、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者(以下これらを「暴力団員等」という。)に該当し、または次のいずれかに該当することが判明した場合

A. 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること

B. 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること

C. 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること

D. 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること

E. 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること

③ 預金者が、自らまたは第三者を利用して次のいずれか一にでも該当する行為をした場合

A. 暴力的な要求行為

B. 法的な責任を超えた不当な要求行為

C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為

D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為

E. その他本号AからDに準ずる行為

8. (届出事項の変更、証書(通帳)の再発行等)

(1) 証書(通帳)または印章を失ったとき、または、印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に届出てください。

(2) 前記(1)の印章、名称、住所その他の届出事項の変更の届出前に生じた損害については、当金庫に過失がある場合を除き、当金庫は責任を負いません。

6. (預金の解約、書替継続)

(1) <追加>

(1) この預金を解約または書替継続するときは、証書裏面の受取欄に届出の印章により、記名押印して当店に提出してください。なお、通帳式の場合は、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により、記名押印して通帳とともに当店に提出してください。

(2) この預金の一部の金額を解約または書替継続するときは、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により記名押印して、証書(通帳)とともに当店に提出してください。

(3) 次の各号の一にでも該当し、預金者との取引を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。

① 預金者が口座開設申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合

② 預金者が、<追加>次のいずれかに該当したことが判明した場合

A. 暴力団

B. 暴力団員

C. 暴力団準構成員

D. 暴力団関係企業

E. 総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等

F. その他本号AからEに準ずる者

③ 預金者が、自らまたは第三者を利用して次の各号に該当する行為をした場合

A. 暴力的な要求行為

B. 法的な責任を超えた不当な要求行為

C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為

D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為

E. その他本号AからDに準ずる行為

7. (届出事項の変更、証書(通帳)の再発行等)

(1) 証書(通帳)または印章を失ったとき、または、印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって当店に届出てください。この届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

(2) <追加>

(3) 証書（通帳）または印章を失った場合のこの預金の元利金の支払いまたは証書（通帳）の再発行は、当金庫所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。

(4) 届出のあった氏名、住所にあてて当金庫が通知または送付書類を発信した場合には、延着しまたは到達しなかったときでも通常到達すべきときに到達したものとみなします。

(5) 証書（通帳）を再発行（汚損等による再発行を含みます。）する場合には、当金庫所定の手数料をいただきます。

9.（成年後見人等の届出）

(1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を届出てください。また、預金者の補助人、保佐人、後見人について、家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合も同様に届出てください。

(2) 家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を届出てください。

(3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前記（1）（2）と同様に、直ちに書面によって届出てください。

(4) 前記（1）～（3）の届出事項に取消または変更等が生じた場合も同様に、直ちに書面によって届出てください。

(5) 前記（1）～（4）の届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

10.（印鑑照合）

払戻請求書、諸届（証書の場合は、証書、諸届）その他の書類に使用された印影を届出の印鑑と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましたうえば、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

なお、個人のこの預金の取引において、預金者は、盗取された証書（通帳）を用いて行われた不正な払戻しの額に相当する金額について、次条により補てんを請求することができます。

11.（盗難証書（通帳）による支払い等）

(1) 個人のこの預金の取引において、盗取された証書（通帳）を用いて行われた不正な支払い（以下、本条において「当該支払い」といいます。）については、次の各号のすべてに該当する場合、預金者は当金庫に対して当該支払いの額およびこれにかかる手数料・利息に相当する金額の補てんを請求することができます。

① 証書（通帳）の盗難に気づいてからすみやかに、当金庫への通知が行われていること

② 当金庫の調査に対し、預金者より十分な説明が行われていること

③ 当金庫に対し、警察署に被害届を提出していることその他の盗難にあったことが推測される事実を確認できるものを示していること

(2) 前項の請求がなされた場合、当該支払いが預金者の故意による場合を除き、当金庫は、当金庫へ通知が行われた日の30日（ただし、当金庫に通知する

(2) 証書（通帳）または印章を失った場合のこの預金の元利金の支払いまたは証書（通帳）の再発行は、当金庫所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。

(4) <追加>

(3) 証書（通帳）を再発行（汚損等による再発行を含みます。）する場合には、当金庫所定の手数料をいただきます。

8.（成年後見人等の届出）

(1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を届出てください。<追加>

(2) 家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を届出てください。

(3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前記（1）（2）と同様に、直ちに書面によって届出てください。

(4) 前記（1）～（3）の届出事項に取消または変更等が生じた場合も同様に、直ちに書面によって届出てください。

(5) 前記（1）～（4）の届出の前に生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

9.（印鑑照合）

払戻請求書、諸届（証書の場合は、証書、~~払戻請求書~~、諸届）その他の書類に使用された印影を届出の印鑑と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましたうえば、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

<追加>

<追加>

ことができないやむを得ない事情があることを預金者が証明した場合は、30日にその事情が継続している期間を加えた日数とします。）前の日以降になされた支払いの額およびこれにかかる手数料・利息に相当する金額（以下「補てん対象額」といいます。）を前条本文にかかわらず補てんするものとします。ただし、当該支払いが行われたことについて、当金庫が善意無過失であることおよび預金者に過失（重過失を除く）があることを当金庫が証明した場合には、当金庫は補てん対象額の4分の3に相当する金額を補てんするものとします。

(3) 前2項の規定は、第1項にかかる当金庫への通知が、証書（通帳）が盗取された日（証書（通帳）が盗取された日が明らかでないときは、盗取された証書（通帳）を用いて行われた不正な預金支払いが最初に行われた日。）から、2年を経過する日以後に行われた場合には、適用されないものとします。

(4) 第2項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当することを当金庫が証明した場合には、当金庫は補てんしません。

① 当該支払いが行われたことについて当金庫が善意かつ無過失であり、かつ、次のいずれかに該当すること

A. 当該支払いが預金者の重大な過失により行われたこと

B. 預金者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族その他の同居人、または家事使用人によって行われたこと

C. 預金者が、被害状況についての当金庫に対する説明において、重要な事項について偽りの説明を行ったこと

② 証書（通帳）の盗取が、戦争、暴動等による著しい社会秩序の混乱に乗じまたはこれに付随して行われたこと

(5) 当金庫が当該預金について預金者に支払いを行っている場合には、この支払いを行った額の限度において、第1項にもとづく補てんの請求には応じることができません。また、預金者が、当該支払いを受けた者から損害賠償または不当利得返還を受けた場合も、その受けた限度において同様とします。

(6) 当金庫が第2項の規定にもとづき補てんを行った場合に、当該補てんを行った金額の限度において、当該預金にかかる払戻請求権は消滅します。

(7) 当金庫が第2項の規定により補てんを行ったときは、当金庫は、当該補てんを行った金額の限度において、盗取された証書（通帳）により不正な支払いを受けた者その他の第三者に対して預金者が有する損害賠償請求権または不当利得返還請求権を取得するものとします。

12. (譲渡、質入れの禁止)

(1) この預金および証書（通帳）は、譲渡または質入れすることはできません。

(2) 当金庫がやむを得ないものと認めて質入れを承諾する場合には、当金庫所定の書式により行います。

13. (保険事故発生時における預金者からの相殺)

(1) この預金は、満期日が未到来であっても、当金庫に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当金庫に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したものとして、

10. (譲渡、質入れの禁止)

(1) この預金および証書（通帳）は、譲渡または質入れすることはできません。

(2) 当金庫がやむを得ないものと認めて質入れを承諾する場合には、当金庫所定の書式により行います。

11. (保険事故発生時における預金者からの相殺)

(1) この預金は、満期日が未到来であっても、当金庫に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当金庫に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したものとして、

相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当金庫に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当金庫に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。

(2) 前記(1)により相殺する場合には、次の手順によるものとします。

① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充當の順序方法を指定のうえ、預金証書は届出印を押印して(通帳は届出印を押印した当金庫所定の払戻請求書とともに)直ちに当金庫に提出してください。ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当金庫に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。

② 上記①の充當の指定がない場合には、当金庫の指定する順序方法により充當いたします。

③ 上記①による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当金庫は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。

(3) 前記(1)により相殺する場合の利息等については、次のとおりとします。

① この預金の利息の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日の前日までとして、利率は約定利率を適用するものとします。

② 借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日までとして、利率、料率は当金庫の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当金庫の定めによるものとします。

(4) 前記(1)により相殺する場合の外国為替相場については当金庫の計算実行時の相場を適用するものとします。

(5) 前記(1)により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当金庫の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

14. (規定の変更)

(1) この規定の各条項その他の条件は、金融情勢の状況の変化その他相当の事由があると認められる場合には、当金庫ウェブサイトへの掲載による公表その他相当の方法で周知することにより、変更できるものとします。

(2) 前項の変更は、公表等の際に定める適用開始日から適用されるものとします。

以上

(2020年7月20日改正)

■休眠預金等活用法共通規定

1. (休眠預金等活用法に係る異動事由)

当金庫は、この預金について、当金庫ウェブサイトに掲げる異動事由を「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律(以下「休眠預金等活用法」という。))にもとづく異動事由として取扱い

相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当金庫に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当金庫に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。

(2) 前記(1)により相殺する場合には、次の手順によるものとします。

① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充當の順序方法を指定のうえ、預金証書は届出印を押印して(通帳は届出印を押印した当金庫所定の払戻請求書とともに)直ちに当金庫に提出してください。ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当金庫に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。

② 上記①の充當の指定がない場合には、当金庫の指定する順序方法により充當いたします。

③ 上記①による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当金庫は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。

(3) 前記(1)により相殺する場合の利息等については、次のとおりとします。

① この預金の利息の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日の前日までとして、利率は約定利率を適用するものとします。

② 借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当金庫に到達した日までとして、利率、料率は当金庫の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当金庫の定めによるものとします。

(4) 前記(1)により相殺する場合の外国為替相場については当金庫の計算実行時の相場を適用するものとします。

(5) 前記(1)により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当金庫の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

<追加>

以上

平成25年4月1日現在

■休眠預金等活用法共通規定

※「休眠預金等活用法共通規定」を当該規定に挿入

1. (休眠預金等活用法に係る異動事由)

当金庫は、この預金について、当金庫ウェブサイトに掲げる異動事由を「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律(以下「休眠預金等活用法」という。))にもとづく異動事由として取扱い

ます。

2. (休眠預金等活用法に係る最終異動日等)

(1) この預金について、休眠預金等活用法における最終異動日等とは、次に掲げる日のうち最も遅い日をいうものとします。

- ① 当金庫ウェブサイトに掲げる異動が最後にあった日
- ② 将来における預金に係る債権の行使が期待される事由として次項で定めるものについては、預金に係る債権の行使が期待される日として次項において定める日
- ③ 当金庫が預金者等に対して休眠預金等活用法第3条第2項に定める事項の通知を発した日。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。）に限ります。
- ④ この預金が休眠預金等活用法第2条第2項に定める預金等に該当することとなった日

(2) 第1項第2号において、将来における預金に係る債権の行使が期待される事由とは、次の各号に掲げる事由のみをいうものとし、預金に係る債権の行使が期待される日とは、当該各号に掲げる事由に応じ、当該各号に定める日とします。

- ① 預入期間、計算期間または償還期間の末日（自動継続扱いの預金にあっては、初回満期日）
- ② 初回の満期日後に次に掲げる事由が生じたこと/当該事由が生じた期間の満期日
 - (a) 異動事由（当金庫ウェブサイトにおいて「異動事由」として掲げる事由をいいます。）
 - (b) 当金庫が預金者等に対して休眠預金活用法第3条第2項に定める事項の通知を発したこと。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。）に限ります。
- ③ 法令、法令にもとづく命令もしくは措置または契約により、この預金について支払が停止されたこと/当該支払停止が解除された日
- ④ この預金について、強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）の対象となったこと/当該手続が終了した日
- ⑤ 定期性総合口座規定にもとづく他の預金について、前各号に掲げる事由が生じたこと/他の預金に係る最終異動日等

3. (休眠預金等代替金に関する取扱い)

(1) この預金について長期間お取引がない場合、休眠預金等活用法にもとづきこの預金に係る債権は消滅し、預金者等は、預金保険機構に対する休眠預金等代替金債権を有することになります。

(2) 前項の場合、預金者等は、当金庫を通じてこの預金に係る休眠預金等代替金債権の支払を請求することができます。この場合において、当金庫が承諾したときは、預金者は、当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって、休眠預金等代替金債権の支払を受けることができます。

す。

2. (休眠預金等活用法に係る最終異動日等)

(1) この預金について、休眠預金等活用法における最終異動日等とは、次に掲げる日のうち最も遅い日をいうものとします。

- ① 当金庫ウェブサイトに掲げる異動が最後にあった日
- ② 将来における預金に係る債権の行使が期待される事由として次項で定めるものについては、預金に係る債権の行使が期待される日として次項において定める日
- ③ 当金庫が預金者等に対して休眠預金等活用法第3条第2項に定める事項の通知を発した日。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。）に限ります。
- ④ この預金が休眠預金等活用法第2条第2項に定める預金等に該当することとなった日

(2) 第1項第2号において、将来における預金に係る債権の行使が期待される事由とは、次の各号に掲げる事由のみをいうものとし、預金に係る債権の行使が期待される日とは、当該各号に掲げる事由に応じ、当該各号に定める日とします。

- ① 預入期間、計算期間または償還期間の末日（自動継続扱いの預金にあっては、初回満期日）
- ② 初回の満期日後に次に掲げる事由が生じたこと/当該事由が生じた期間の満期日
 - (a) 異動事由（当金庫ウェブサイトにおいて「異動事由」として掲げる事由をいいます。）
 - (b) 当金庫が預金者等に対して休眠預金活用法第3条第2項に定める事項の通知を発したこと。ただし、当該通知が預金者に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者の意思によらないで返送されたときを除く。）に限ります。
- ③ 法令、法令にもとづく命令もしくは措置または契約により、この預金について支払が停止されたこと/当該支払停止が解除された日
- ④ この預金について、強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）の対象となったこと/当該手続が終了した日
- ⑤ 定期性総合口座規定にもとづく他の預金について、前各号に掲げる事由が生じたこと/他の預金に係る最終異動日等

3. (休眠預金等代替金に関する取扱い)

(1) この預金について長期間お取引がない場合、休眠預金等活用法にもとづきこの預金に係る債権は消滅し、預金者等は、預金保険機構に対する休眠預金等代替金債権を有することになります。

(2) 前項の場合、預金者等は、当金庫を通じてこの預金に係る休眠預金等代替金債権の支払を請求することができます。この場合において、当金庫が承諾したときは、預金者は、当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって、休眠預金等代替金債権の支払を受けることができます。

<p>(3) 預金者等は、第1項の場合において、次に掲げる事由が生じたときは、休眠預金等活用法第7条第2項による申出および支払の請求をすることについて、あらかじめ当金庫に委任します。</p> <p>① この預金について、振込み、口座振替その他の方法により、第三者からの入金または当金庫からの入金であって法令または契約に定める義務にもとづくもの（利子の支払に係るものを除きます。）が生じたこと</p> <p>② この預金について、手形または小切手の提示その他の第三者による債権の支払の請求が生じたこと（当金庫が当該支払の請求を把握することができる場合に限り。）</p> <p>③ この預金に係る休眠預金等代替金の支払を目的とする債権に対する強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）が行われたこと</p> <p>④ この預金に係る休眠預金等代替金の一部の支払が行われたこと</p> <p>(4) 当金庫は、次の各号に掲げる事由を満たす場合に限り、預金者等に代わって第3項による休眠預金等代替金の支払を請求することを約します。</p> <p>① 当金庫がこの預金に係る休眠預金等代替金について、預金保険機構から支払等業務の委託を受けていること</p> <p>② この預金について、第3項第2号に掲げる事由が生じた場合には、当該支払への請求に応じることを目的として預金保険機構に対して休眠預金等代替金の支払を請求すること</p> <p>③ 前項にもとづく取扱いを行う場合には、預金者等が当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって支払うこと</p> <p><u>4. (規定の変更)</u></p> <p><u>(1) この規定の各条項その他の条件は、金融情勢の状況の変化その他相当の事由があると認められる場合には、当金庫ウェブサイトへの掲載による公表その他相当の方法で周知することにより、変更できるものとします。</u></p> <p><u>(2) 前項の変更は、公表等の際に定める適用開始日から適用されるものとします。</u></p> <p style="text-align: right;"><u>以上</u> <u>(2020年4月1日改正)</u></p>	<p>(3) 預金者等は、第1項の場合において、次に掲げる事由が生じたときは、休眠預金等活用法第7条第2項による申出および支払の請求をすることについて、あらかじめ当金庫に委任します。</p> <p>① この預金について、振込み、口座振替その他の方法により、第三者からの入金または当金庫からの入金であって法令または契約に定める義務にもとづくもの（利子の支払に係るものを除きます。）が生じたこと</p> <p>② この預金について、手形または小切手の提示その他の第三者による債権の支払の請求が生じたこと（当金庫が当該支払の請求を把握することができる場合に限り。）</p> <p>③ この預金に係る休眠預金等代替金の支払を目的とする債権に対する強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）が行われたこと</p> <p>④ この預金に係る休眠預金等代替金の一部の支払が行われたこと</p> <p>(4) 当金庫は、次の各号に掲げる事由を満たす場合に限り、預金者等に代わって第3項による休眠預金等代替金の支払を請求することを約します。</p> <p>① 当金庫がこの預金に係る休眠預金等代替金について、預金保険機構から支払等業務の委託を受けていること</p> <p>② この預金について、第3項第2号に掲げる事由が生じた場合には、当該支払への請求に応じることを目的として預金保険機構に対して休眠預金等代替金の支払を請求すること</p> <p>③ 前項にもとづく取扱いを行う場合には、預金者等が当金庫に対して有していた預金債権を取得する方法によって支払うこと</p> <p><追加></p> <p style="text-align: right;"><u>以上</u> <u>(平成30年4月1日改正)</u></p>
---	--

以上